

# 東与賀

higashiyoka

文責 田中泰司

佐賀市立東与賀中学校

## Rise to the TOP 頂点へ駆け上げろ

### 全力で盛り上がった素晴らしい体育大会☆

約二週間の準備期間を経て、去る五月二四日に第七〇回東与賀中学校体育大会が薄曇りの絶好のコンディションの下で開催されました。

両団長の選手宣誓を皮切りに、競技・運営・集団演技と三年生を中心としたそれまでの練習と取組の成果を存分に発揮しました。

青団「我武者羅」、赤団「七転八起」とそれぞれのテーマをもとに最後まで手を抜かず全力で頑張り、そして笑顔弾ける場面ばかりでした。リレーでたとえ大きく引き離されたとしても、ゴールまで全力で走り続ける真剣な姿に目頭が熱くなりました。

またそれぞれの学年種目でも事前に作戦を練り最後まで諦めない姿勢に胸を打たれました。

パネルからはそれぞれの熱い思いが感じられ、限られた期間の中で工夫を重ねながら表現された素晴らしい出来栄でした。

そして最も印象的だったのが両団の集団演技です。青のコミカルで可愛い振り付けと弾ける笑顔、手を抜かない集団としてのまとまりは感動的でした。赤の前半の硬派な舞、一転して後半はリズムミカルな動きと

「静と動」を感じさせる圧巻の演技でした。「思いを出し切り全力で競技し、応援し完全燃焼で燃え尽きてよう」と伝えていました。それぞれにとって達成できたことと確信します。体育大会が開催できたこと、そして共に頑張ってくれた仲間や先生方がいてくれたことへの感謝を忘れないで下さい。本当にありがとうございます。そしてお疲れ様。これから一緒に頑張りましょう！

決まりについて

### 「決まり」について

教師になる前に、三年少し会社に勤めていました。その会社は世界中に工場があり、東京の本社にも研修で多くの国からたくさんの人たちが訪れていました。研修が長くなる時には彼らは私たち新入社員が生活していた千葉県の市川市にある社員寮に宿泊します。

ある時、インドネシアから研修生がやってきました。約一ヶ月の研修です。彼は立派な髭（ヒゲ）を生やしていました。それはイスラム教では大人の証として男性は髭を生やすという習慣があるからでした。食生活も異なりますし、私たちは生活を共にしながら徐々に仲良くなりました。

しばらくして、彼は突然髭をそり落としました。私はびっくりして理由を尋ねましたが、「社則」で禁止されているから、と彼は答えました。「勉強にきているのだから決まりには従わなければならぬ。帰国したらまた生やすよ」と彼はさばさばした表情で答えました。

恐らく今はそのような決まりはなくなっていると思います。しかしその時の「何かを得る、学ぶ」ために必要な「決まりは守る」という彼の姿勢は潔いと感じました。謙虚でもありましたし、学んだことを国へ持ち帰るといふ使命感も大きかったはず。大事な事の優先順位をつけて彼は自分で決断し、実行したのです。

よく決まりについて合理的ではないものは無くすべきと言われます。「なぜ〇〇したらダメなのですか？」という質問を受けることも多いです。では反対に「なぜ〇〇したいのですか？」という問いかけに、説得力を伴って答えられるでしょうか。そして「〇〇すること」で「失われるかもしれない何か」について自分で責任をもてるでしょうか？

最初に三年生を担任した時何度言っても違反のズボン直さない生徒がいました。三者面談でもその恰好でした。私はそれでも良いので受験もそのまま行くと約束して下さいと保護者に伝えましたが、「その時だけはちゃんとさせる」と返事されました。「〇〇したい↓違反ズボン履いて目立ちたい」だけど、自分が「入試で損をする」のは嫌だから、その時だけはみんなと同じにする。そして入試が終わったらまた（眉を剃るし、髪も染めるし）ズボンも違反を履く…決まりを破ることの最もいけない点は「守っている人間が嫌な気持ちになること」で、先ほどのような考え方や態度は、誰も言葉には出さないものの周りから軽蔑され、仲間としては認めてもらえなくなるのです。それは両方にとってとても悲しいことです。

私は「決まり」としてある以上は守るべきだと考えますし、その「決まり」が変わった方が、あるいはなくした方が今より生活が改善されるのならば、そうするべきだと思います。

そのためには、周囲を動かし、みんなが納得できる理由が必要。正当な権利と単なる個人の趣味嗜好の「わがまま」とは全く異なる次元のもので

自分の意見や考えの根拠が、周りの人間を納得させる説得力があるのかどうか、しっかりと掘りし、真剣に考えてみてください。そしてその行動の責任を自分が負えるかどうかを自分自身に問いかけて下さい。自分の判断や決断について一切の責任を自分で負う覚悟をもつこと、それが大人として必要な態度だと私は確信しています。

### 校長室より

東与賀中学校に赴任して約二か月が経ちました。いろいろと忙しかったり大変だったりしますが、生徒たちの人懐こさや職員の方の良さ、保護者さんや地域の方々の温かさに支えられ、楽しく仕事しています。中でも、小中高の先輩である北村支所長とご一緒させていただく機会が多くあり、「先輩をよろしくお願います」と紹介してもらったり、「愚痴を聞いてもらったりと、とても有難く感じています。今後も東与賀町唯一の中学校として、多くの皆さんのご協力を仰ぎながら、生徒たちが自分自身の足でしっかりと立ち、自分の人生を切り開いていけるように職員一同頑張っていきます。